

## 神様の救い出す力

今日は午後から墓前礼拝が予定されています。思えば2021年1月31日に教会墓地が完成し、今年の5月に初めて墓前礼拝を執り行いました。今年度も続けて墓前礼拝を行うことのできる恵みを神様に感謝いたします。昨年度は初めてということで、高尾駅の方から東京霊園に行くバスを乗り間違えられた方々もおられたようで、色々混乱もあり、お疲れになった方もおられたと聞いています。今年はそれらをしっかりと反省しまして、教会でバスをチャーターし、教会から皆で教会墓地の前まで行き、墓前礼拝を執り行い、また皆でバスに乗って教会に帰って来たいと考えています。帰りは途中、バスを高尾駅に寄ってもらいますので、高尾駅から電車で帰られる方はそこで降りていただけるようにいたします。いずれにしても皆様にとってご負担の少ない墓前礼拝にいたしますので、昨年に懲りずと言いますか、安心して墓前礼拝にご出席いただければ幸いです。神様が今日執り行うすべての礼拝を祝し、すべての人に慰めと癒しを与えてくださいますようにお祈りしています。

さて、そんな今日は聖書の中からダニエル書6:1～25を取り上げさせていただきました。どんなことが書かれてあったでしょうか。

昔々のお話です。バビロニアという国がありました。ある時、この国をよく治めるために、王様は大勢の賢い家来の中から三人を選びました。「さて、お前たちに大臣という一番偉い役を与える。私を助けて、この国を強い、良い国にして欲しい。ダニエル、お前は捕虜になってこの国に連れてこられたのだが、私に良く仕えてくれるから頼りにしているぞ。いいか、しっかりやってくれ。」ダニエルは信仰も深く、利口で、真心を持って王様に尽くしたので、王様はいつもダニエルを相談相手にしました。でも、他の二人はそれが気に入りません。「王様はダニエルばかりかわいがって、私たちに寄せ付けないじゃないか。」「実にけしからん。ダニエルのやつ、捕虜のくせにいい気になって威張ってやがる。」「あいつを何とかしなければ……。」二人の大臣は何事かひそひそと相談を始めました。

「王様、国民は王様のおかげで幸せに暮らしています。王様に感謝と尊敬を表すために、王様に礼拝を捧げるようにしたいと思うのですが……。」「ふんふん、それは良いことだな。」「一か月の間、皆が王様だけにお祈りと礼拝を捧げることにいたします。これを守らない者は、ライオンの穴に投げ込むようにしてはいかがでしょうか。」王様は大臣たちにうまく騙されて、そんな命令を出してしまいました。

けれども信仰深いダニエルは、いつものように一日に三度神様にお祈りと礼拝をお捧げするのを止めませんでした。ダニエルは祈ります。「神様、どうか王様とこの国をお守りください。」

するとどうでしょう。早速他の大臣たちが王様に告げ口をしました。「王様、王様、大変です。先日出しになりました王様のご命令を守らないやつがあります。王様にお祈りしないで、神様にお祈りしているやつを見つけました。」「なんだと。私の命令に背くやつはすぐライオンの穴に投げ込んでしまえ!」「はっ、ご命令通りにいたします。」「やっ、ちょ、ちょっと待て、そのけしからんやつは誰だ?」「ダニエルでございます。」「なに、ダニエル?」王様はびっくりしました。けれども、一度出した自分の命令を覆すことはできません。

ダニエルは静かに神様にお祈りを捧げていました。そこへ突然、どやどやと兵士たちが入ってきました。「王様のご命令だ!」兵士たちは乱暴にダニエルの大臣の服をはぎ取り、荒縄で両手を縛りました。邪魔者を捕まえてしまった大臣たちは得意になって王様のところへやって来ました。「王様、ご安心ください。これからは一人残らず国民は王様を礼拝するでしょう。」「本当に平和がやって来て、王様はますます尊敬されて偉くなるでしょう。私たちも王様のために心からお喜び申し上げます。」王様は何とかしてダニエルを助けたかったのですが、もうどうすることもできません。かわいそうなダニエルはどうなったでしょう。

ダニエルはライオンの穴に投げ込まれようとしています。「ウォーッ、ウォーッ!」

穴の底からものすごいライオンの唸り声が聞こえます。何十頭という恐ろしいライオンがおなかを空かせて、投げ込まれる餌を今か今かと待ち構えていました。「ああ神様、私は神様にすべてをお任せします。」ダニエルは一生懸命お祈りをしました。恐ろしい唸り声を上げて、すぐにもダニエルに飛びかかろうとしたライオンは、これまたどうしたことでしょう。急におとなしくなってダニエルの周りにうずくまってしまいました。ダニエルに食いつこうとするライオンは一頭もいません。「あれ、どうしたんだろう。なぜ私に飛びかかって来ないんだろう。私と仲良くしてくれるのか？」

一方その頃、王様は気が気ではありませんでした。自分が命令してしまったので、もうどうにもなりません。「ああ、どうしたらいいだろう。かわいそうなダニエル。何とか助かって欲しいのだが……。ああ、神様、私が悪かったのです。どうか赦してください。そしてダニエルをお助けください。」王様はご飯も食わず、夜も寝ないで神様にお詫びしました。

王様は夜が明けるのを待ちかねて、ライオンの穴のところに来ました。そして兵士たちにすぐ石のふたを取らせると、「ダニエル、ダニエル、赦してくれ。私が悪かった。赦してくれ」と叫びました。するとどうでしょう。「王様、ダニエルはここにいます。生きています。」「えっ、ダニエル、生きていてくれたのか。良かった、良かった。さあ、早くダニエルを出してやりなさい。綱を持ってきなさい。」兵士たちはライオンの穴からダニエルを引き上げました。

王様はダニエルの手を取って、「ダニエル、赦してくれ。私が悪かった。しかし、よく無事でいてくれた。なんてありがたいことだろう」と喜びました。「王様、私は神様にお祈りをしました。私の信じている神様が私を助けてくださったのです。ライオンは私と仲良くしてくれました。」「お前の言う通りだ。お前の信仰こそ、本当のものだ。お前が信じている神様こそ、本当の神様だ。」こうして王様とダニエルは心から神様に感謝し、こんなことを企んだ他の大臣たちを処罰して、国中に神様を礼拝するようにお触れを出しました。

これが今日のお話です。このお話を通して与えられるメッセージ、それはどんな困難にぶつかっても、神様を信じて従いぬく人は神様の大きな力で守られるということでしょう。

このダニエル書という旧約の文書は紀元前160年前後に、シリア王アンティオコス4世の迫害下にさらされたユダヤ人たちを励ますために書かれたと言われています。ユダヤの宗教に嫌悪感を抱いたこのアンティオコス4世という王様はこれを壊滅させようと、まずユダヤ人にとって重要な慣習であった割礼や安息日を禁じ、豚などの汚れた動物を食べたり、ギリシアの神に犠牲を捧げたりすることを強要しました。さらにエルサレムの神殿にゼウスの像をまつり、放蕩と酒宴によって聖所を汚したと言われています。このような中であって、一部の人々は自分の安全のためにその信仰を捨てましたが、あくまで信仰を貫こうとする人々は深刻な試練に立たされました。しかしダニエル書は、昔々のダニエルのお話、また彼が見た幻を語ることによって、このような状況に立たされても時の勢いに打ちひしがれることなく、忠実な信仰に力強く立ち続ける者に、神様の最終的な勝利がもたらされることを訴えて、人々を固く信仰に立たせようと励ましたのでした。

ダニエルのお話は時を超えて、現在の私たちも励まします。どんな困難にぶつかっても、神様を信じて従いぬく人は神様の大きな力で守られる、そして最後には勝利に与ることができる。

でも、私は思うのです。こんなダニエルのような分かりやすい奇跡で神様が私たちを困難から引き上げてくれたらどれだけ良いかと。時々求道者の方からこんなことを尋ねられることがあります。「信仰を持てば、神様の恵みばかりが与えられて万々歳の人生が送れるのですか？」と。そのように聞かれたら、私は残念ながら「No」と言わざるを得ません。そんな都合の良いことを約束するのが信仰ではないのです。今日の聖書箇所を読んでも分かる通り、聖書を読めば、神様を信じた人が大きな試練の中を歩んだ記事がいくつも出てきます。私たちの人生を振り返ってみればすぐに分かるよ

うに、神様を信じていても私たちの人生には困難がいくつも生じてくるのです。そしてその時に、今日のダニエルのお話のように必ず神様が大きな奇跡を起こして私たちの困難をたちまち解決してくれるわけではありません。そんなことは本当にごく稀だと言ってよいでしょう。では、ダニエルのメッセージは嘘なのかと言うと、私はそんなことは決してないと断言できます。

神様に都合の良い大きな奇跡を期待すると、躓きは避けられません。私たちを困難から救い出す神様の力はそんな奇跡然とした姿ではなく、むしろ目に見えないささやかな仕方で現れてきます。寄り添う力、私たちを根底から支えてくれる力です。その御子イエス・キリストを通して人の痛みを本当に理解してくださる神様が、十字架を背負うように私たちの痛み、私たちの困難を共に背負ってくださるのです。そして、人智を超えた神様の御旨が成るまでを、エマオへの道のりのように共に歩んでくださるのです。

これまでの人生の中で幾度も困難が襲い、そのたびに神様はそのように私を救い出してくださいました。私だけではありません。今日は午後から墓前礼拝が予定されていますが、既に神様の御許に召された私たちの信仰の先達たちも皆、そのように神様に背負われ、その生涯を歩んできたのです。そして、困難から救い出されてきたのです。そして、今は神様の御許ですべての労苦の涙を拭われ、永遠の命の勝利に与っておられます。その証を、私は今日、教会墓地の前で皆で聞きたいと願います。

「神様の救い出す力は本物だ。どんな困難にぶつかっても、神様を信じて従いぬく人は神様の大きな力で守られる、そして最後には勝利に与ることができる。」この礼拝のひと時、また墓前礼拝のひと時、その確信に満たされて、皆で神様を褒め称えましょう。代々の聖徒と共に、どんな時も神様から離れることなく皆で一緒に歩いていきたいと願います。

祈りましょう。天の神様。今日も代々の聖徒と共にあなたに礼拝をお捧げしています。この礼拝のひと時、また午後の墓前礼拝のひと時、彼らの証しの声にしっかりと耳を傾けることができますように。どんな時も私たちのそばにいまして、私たちを力強く背負ってくださるあなたに信頼し、永遠の命に至るまでの道のりをあなたから離れることなく歩いていくことができますように。この一言の祈りを、貴き主イエス・キリストの御名を通してあなたの御前にお捧げ致します。アーメン。